

日本労働者協同会
成立記念作品

人は人のために働いて
支え合い、
人のために死ぬ。
結局はそれ以上でも
それ以下でもない。

これは人間の仕事である。

2/22(土)14:00～京都市呉竹文化センター(京阪・近鉄丹波駅西口すぐ)

中村哲は問う——“働く”とは何か、“仕事”とは何か、そして“平和”とは!

3/8(土)14:00～京都市醍醐交流会館(東西線「醍醐駅」すぐ)



医師中村哲の 仕事・働く ということ

語り〇室井滋 朗読〇塚本晋也

写真・映像提供〇ベシヤワール会/PM S

企画提供〇日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会センター事業団

一般社団法人 日本社会連帯機構

製作〇日本電波ニュース社 HD/16:9/カラー/47分



医師中村哲の
仕事・働く
ということ

アフガニスタンとパキスタンで、
刑や戦乱、そして干ばつに
苦しむ人々のために
30年にわたり
活動を続けた男がいた。



1984年に医療支援をスタートし、干ばつ対策用の用水路建設、農村復興へと活動を広げた中村哲医師、その歩みは35年に及んだ。中村医師はまず現地の言葉を覚え、現地の人々との対話を通じ、信頼を重ねていく。「私たちに確乎とした援助哲学があるわけではないが唯一譲れぬ一線は『現地の人々の立場に立ち、現地の文化や価値観を尊重し、現地のために働くこと』である」用水路建設では自ら設計図を引き、重機を運転し、泥にまみれて一緒に作業する。その作業には貧しさゆえにタリバンに参加していた農民も参加していた。「己が何のために生きているかと問うことは徒勞である。人は人のために働いて支え合い、人のために死ぬ。



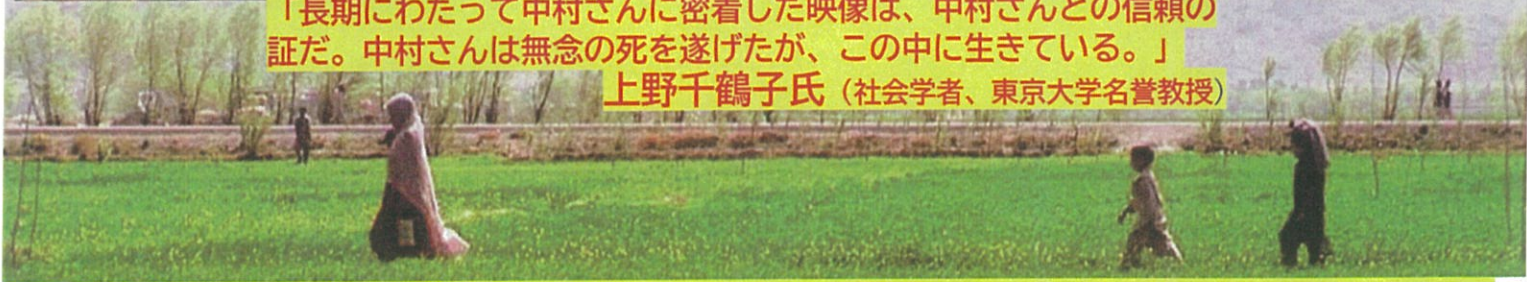
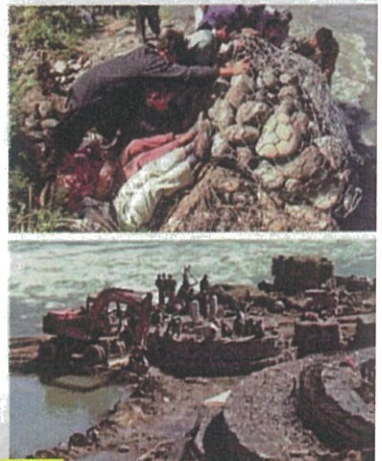
そこに生じる喜怒哀楽に翻弄されながらも、結局はそれ以上でもそれ以下でもない「荒れ果てた大地は蘇り、農作物は実り、65万人の生活を支えている。

親子で収穫し、家族で食事をする風景は眩しい。

中村医師は言う「これは人間の仕事である」

「長期にわたって中村さんに密着した映像は、中村さんとの信頼の証だ。中村さんは無念の死を遂げたが、この中に生きている。」

上野千鶴子氏 (社会学者、東京大学名誉教授)



2/22(土)14:00～京都市呉竹文化センター (京阪・近鉄丹波駅西口すぐ)

3/8(土)14:00～京都市醍醐交流会館 (東西線「醍醐駅」すぐ) パセオ・ダイゴロー西館 2F

30分前より受付/開場 *申込先着制 呉竹ホール 600名・醍醐ホール 190名

参加費:一般 1,000円(学生・障がい者 500円、高校生以下無料)

QRコード申込⇒



上映(47分)後、本作品企画者等によるトーク企画あり

「中村医師の生き方・働き方から考えるまちづくりの在り方について」(仮)

【申込方法】下記にご記入し FAX(0664767865)もしくはQRコード読み取りでお申込みください*

お名前		観覧日時	<input type="checkbox"/> 2/22 呉竹(14:00～) <input type="checkbox"/> 3/8 醍醐(14:00～)	
所属・お住まいの地域		年代	代	他観覧者名
電話番号	- -	mail	@	

FAX(0664767865)もしくはQRコード読み取りでの申込みができない方の申込 (問) ☎0756478010

主催:映画『医師中村哲の仕事・働くということ』京都上映実行委員会

(受付時間:平日 10:00~17:00)

共催:ワーカーズコープ関西事業本部 (一社) 日本社会連帯機構



後援:京都市 京都市教育委員会